

なぜ“旧暦”がスゴイのか！？

理由その 衣替え、旅行計画、商品の販売戦略に役立つ！

旧暦や二十四節気を見れば季節の変わり目や気候の寒暖を予測できます。衣服の入れ替え、家族旅行の計画、さらにビジネスでは商品の買付けや売れ筋予測に効果を発揮！

家庭や仕事場で是非本来の季節感を体験してください。

理由その ガーデニング、山野草や自然散策にも威力発揮！

二十四節気や七十二候を見れば植物の種蒔きや開花・収穫などの予測が可能。週末のトレッキングや野山の散策、自宅でのガーデニングなどの参考に。

理由その 月の周期を理解し、血圧や体調管理に役立てましょう。

月の満ち欠けは、あなたの血圧や体調、心にも影響を与えます。月の周期を理解し、体のバイオリズムを知り、日々の健康管理に役立ててください。

理由その 漁業や釣りに活用すれば大漁間違いなし

大潮となる新月と満月の頃は、大漁の可能性十分。月の運行を活用し、釣りに出かけよう！

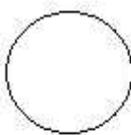
季節の変化がひと目でわかる二十四節気、七十二候

季節の移り変わりを的確につかみ、釣りや日常生活に役立ちます。

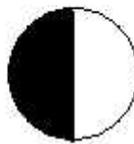
日本人は代々四季の移り変わりを敏感にとらえ日常生活に対応してきました。旧暦は、月や太陽の動きを計算し、天文学データに基づいて科学的に作られており、我々が住む日本、そして広くは東アジアの気候に一番適した暦だと言われています。



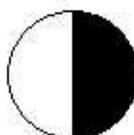
新月（月の見えない状態）



満月（十五夜）



上弦（八日月）



下弦（二十三夜）

(1) 旧暦って何？

明治5年(1872)の明治改暦による太陽暦採用以前に使用されていた太陰太陽暦(天保暦)という暦法で『新暦(太陽暦)』に対して『旧暦』と呼ばれています。

(2) 新暦と旧暦の違いは？

新暦とは、明治の改暦により採用された太陽暦のことで、「地球が太陽の周囲を1回りする時間を1年と定めた暦」として一太陽年(一回帰年)の長さに基づき、暦年

が設定されています。月の運行や満ち欠けなどの周期は考慮されていません。現在、世界の共通暦となっているグレゴリー暦はこの一種で1年365日、4年ごとに1日の閏日を置いて366日としていますが、西暦100年単位の区切りの年はその西暦年が400で割り切れる年だけを閏年とすると定めています。日本では明治5年(1872)12月3日を明治6年の1月1日として実施され現在に至っています。

それに対して旧暦とは、太陰太陽暦のことで太陰暦(月の運行・満ち欠けによる周期的変化を基準とした暦)に季節変化(二十四節気)など太陽暦の要素を取り入れて作られた暦です。基本になった太陰暦は、月の周期を基準にし、1ヶ月を29日あるいは30日、1ヶ年を12ヶ月と定めているので太陽年より11日短くなっています。そのズレを閏月を置き調整する方法も新暦には無い特徴です。(閏年には1年が13ヶ月となります。)ちなみに「太陰」とは月のことです。この旧暦は日本では飛鳥時代に採用され、明治5年まで使われてきました。

(3) 二十四節気(にじゅうしせっき)とは?

太陽の運行を基準にした季節区分法。太陰暦(月の運行による暦法)では、暦の日付が太陽の位置とは無関係であるところから暦と春夏秋冬の周期にズレが生じ、農耕に大変不便な思いをしました。古代中国では気候の推移を正しく知らせるために長い期間をかけて研究し、二十四節気を考え出しました。

二十四節気は暦の上での気候推移を表わす基準点である冬至を計算の起点にし、1太陽年を24等分したものです。現在は太陽が春分点から黄経上を15度移動するごとに一節気進めています。これにより正しい季節がわかるようになります。農作業に大変便利になりました。もともとの発祥は中国ですが、日本でも季節の変化を示すものとして非常に便利で長い間日本の風土に根付いてきました。

(4) 二十四節気の四季はいつからいつまで?

- 【春】 立春～穀雨  
新暦：2月4日頃～5月4日頃  
旧暦：正月正節～三月中気
- 【夏】 立夏～大暑  
新暦：5月5日頃～8月7日頃  
旧暦：四月正節～六月中気
- 【秋】 立秋～霜降  
新暦：8月8日頃～11月中頃  
旧暦：七月正節～九月中気
- 【冬】 立冬～大寒  
新暦：11月8日頃～2月3日ごろ  
旧暦：十月正節～十二月中気

(5) 月の満ち欠けと暦の関係は?

月は太陽と地球の相対的な位置関係によって、新月、上弦、満月、下弦の順に満ち欠けを繰り返します。その平均周期を朔望月(さくぼうげつ)といい、一朔望月は29.530589日とされています。新暦では一太陽年を十二分して一月とし、1・3・5・7・8・10・12月を大の月で31日、4・6・9・11月を小の月で30日、2月のみ平年を28

日、閏年を29日としています。一方、旧暦では朔を含む日を一日（朔日）として大の月を30日、小の月を29日としています。太陽の運行との調整と図る意味で閏月が設けられています。現在天文学で使われている月の満ち欠けを表わす度合いを「月齢」と呼び、新月を0とし、次の新月までの正午における経過時間を一日単位で起算した日数で表します。上弦は月齢7前後、満月(十五夜)は月齢15前後、下弦は月齢22前後、と言った具合に旧暦の日付とほぼ対応するものです。

(6)七十二候(しちじゅうにこう)とは？

二十四節気をさらに細かく3等分して、1年を5日または6日毎の七十二候に分け、二十四節気同様にそれぞれの時候の推移を短い言葉で表わしたものです。もとは中国における動植物の変化や自然現象の推移を表わしたのですが、今は日本の風土に合わせた動植物や気象の季節カレンダーとなっています。

(7)雑節・主要年中行事とは？

二十四節気とは別に一年間の季節の移り変わりを的確に掴むために、または暦日の補助的な意味合いを含め、特別に設けられた暦日を雑日といいます。一般に雑節と呼ばれるものは九つあり、

「節分」・「彼岸(春・秋)」・「社日(しゃにち)(春・秋)」・「八十八夜」・「入梅」・「半夏生(はんげしょう)」・「土用(春・夏・秋・冬)」・「二百十日」・「二百二十日」がそれに当たります。

また主要年中行事とは、「五節句(七草・ひな祭・端午・七夕・重陽)」・「初午」・「中元(上元・下元)」・「盂蘭盆(うらぼん)」・「大祓え(おおはらえ)」など全国的に行われ、社会生活の節目になっているものです。